

バヌアツ便り

青年海外協力隊
細川 伸夫
職種：小学校教諭

私は、南太平洋に浮かぶ小さな島国 バヌアツ共和国 において小学校で算数の学力向上を目標として活動しています。この国では、公用語が三つ（ビスラマ語・英語・フランス語）あり、その他に地域ごとにローカルランゲージなるものが存在しています。配属先は、タンナ島のフランス語系の小学校で週3回、その他に週に2回、別の小学校で授業のサポートを行っています。



自宅のローカルハウス

現地の皆さんは、ものすごく友好的で食べ物などをよく貰ったり、食事をご馳走になることも多くあります。私の住む地域では集落の繋がりが強く、配属した当日から熱烈な歓迎を受けることになり NAKOU というカスタムネームを頂くことができました。ちなみに自然という意味があるそうです。嗜好品として カバ なる飲み物(コショウ科の木の根を潰したものに水を加えたもの)を飲んで静かな夜を楽しんでいます。アルコール成分はないのですが、飲み過ぎると頭がボウとしてくることもあります。

ここでは小学校から留年制度があり、実際ベテランの小学1年生も存在します。小学校教諭の数も十分ではなく、分数や小数などが理解できていない先生が多いのも現状です。また、日常会話がビスラマ語(ビジン英語)であるためフランス語系の小学校では数の認識が英語系の小学校よりも遅いのではないかと実感しています。掛算の九九は三年生から学習するのですが、小学校を卒業するまでに暗記をしている児童は小数です。



自宅から見える夕日

私は、この活動において一方的に押し付けることはしないようにしています。勉強をする意義などはよく話をするのですが。例えば、いろいろな職業の選択ができるというようなことを言います。また、両親の方には、「バヌアツは独立して30年しかたっていないので国としては若く子供です。若い世代がこれからのバヌアツを作るのです。」というようなこと言います。すこしづつでも教育にたいして関心をもってってくれたらそれでいいと考えています。学校とは思えないような粗悪なつくり、時間の概念がなく、タイムマネジメントができないこと、安定した職業が少ない、貧富の差が激しいことなど課題が山積していますが、中間の1年が過ぎたことで自分の中の目標が明確になったのも事実です。

雪国にいるみなさんへ、世界で一番幸せな国からの便りでした。

ここタンナにおいては、マンゴーやパイナップル、パパイヤなどが十分過ぎるほど味わうことができます。また世界で一番、火口に近づける場所として有名なヤスール火山が観光名所となっています。



州都にあるマーケット